

# 尾上の郷だより

第4号

平成21年7月発行

発行責任者  
：渡部博也

編集  
：マナー委員会



尾上の郷は、「ほんまもん」の介護を追求し、地域社会に貢献することを経営の理念とします。

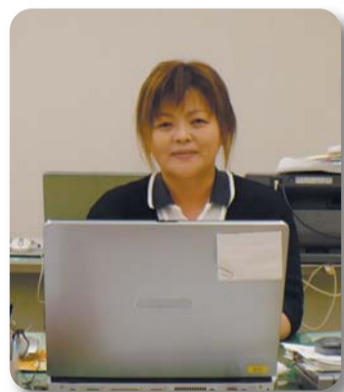
日頃より、尾上の郷デイサービスにご支援とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。今年は4月に介護報酬改定がありました。利用者様のご負担が増える結果になりました。当施設のサービスにおきましても更に改善を図り、地域の皆様お一人、お一人のニーズに応えられるよう更に努力してまいります。当法人の理念である「ほんまもん」の介護を追求し、「もっと歩けるようになりたい」「今の身体機能を維持したい」という要望に応えられるよう、専門スタッフによるリハビリの充実にも力を入れていきたいと思っております。お食事の面におきましても、季節感を取り入れたメニューやご当地駅弁、皆様の前での実演料理など様々な企画をご用意し、「利用者様の笑顔を大切に」をモットーにさらなる取り組みにチャレンジしていきたいと考えております。21年度はより皆様に安心して過ごしていただける楽しいデイサービスを目指し、職員一同努力して参りますので、今後ともよろしく願いたします。



魚橋 泰輔

■デイサービスです

今回の「尾上の郷だより」では利用者様へのお礼と日頃のヘルパーの想いをお伝えしたいと思います。私たちは皆さまがご自宅で安心して生活できるような、できるだけのお手伝いをさせてもらっています。この中で私たちは皆さまと触れ合う喜びやヘルパー仲間との語り合いを支えに日々、楽しく仕事をしています。ヘルパーの仕事には皆さまの「してほしい」思いを「してあげられない」ことが色々あり、辛い思いとストレスをいっぱい抱えてヘルパーステーションに帰って来ることがあります。介護保険には自立支援という大きな柱があり、「ご本人の自立を支援（ヘルプ）する」が基本になっています。これが皆さまの思いと介護保険の板ばさみでヘルパーが苦しむ大きな原因になっています。それでも皆さまからの「ありがとう」の一言に励まされ、人生の大先輩から多くのことを学ばせてもらって、感謝！感謝！です。これからも私たちヘルパーを暖かく見守り、ご理解とご協力をよろしく願いたします。



瀬戸 佳子

■ヘルパーです

いつも、尾上の郷のご利用ありがとうございます。私が小規模に来て、もうすぐ1年です。今までヘルパーとケアマネを経験してきた私にとって小規模多機能ではチームケアの楽しさ、難しさを実感した1年でもあります。平成18年にスタートした新しいサービスである小規模の最大の特徴は、いつも通っているところに宿泊ができ、よく分かった顔なじみの職員が訪問するので、不安が少ないということ。通常のデイサービスに比べてスタッフも多く、個別にケアができるというのも特徴です。ただ、このサービスで苦しいところは、登録定員25人に対し、通所定員15人、宿泊定員9人と全員が一度に利用できないことです。これが利用者様を悩ませ、また私が悩み、苦しむ最大の要因です。利用を我慢していただくことに、ご不満もあるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。今後とも、スタッフ全員で皆さんに心地よい時間を過ごしていただけるよう努力して行きますので、よろしく願いたします。



北井 亜矢

■小規模多機能です

ケアマネの草野です。いつもお世話になりありがとうございます。居宅支援事業所尾上は、はりま病院の南、はりまクリニックとの中間にあり、明るく元気な5人のスタッフが介護保険の手続きや相談、援助業務を行っています。この4月より、皆さまの介護度を決める認定調査項目が変更になりましたが「介護度が軽く認定される」との意見があり、厚労省に「検討会」が設けられ、結論が出るまでは皆さまの希望で、更新前の介護度が適用される経過措置ができました。早く結論が出てほしいものです。さて、私たちケアマネが持ち歩くカバンの中味はご存知ですか？皆さまの利用票等、介護保険手続きに関する書類一式、各種施設等のパンフレット、単価表、筆記用具、電卓、朱肉、メジャー、名刺等々です。5人のカバンの重さは様々ですが、皆さまのための沢山の情報を詰め込んで、日々駆け回っています。これからも皆様に信頼されるケアマネを目指して頑張りますので、今後ともよろしく願いたします。



草野 美津子

■居宅支援です